殿堂建立棟札

爰在一院山号泉谷寺称福厳予壮歳時應寺寶積之命曽住此山数日而仰望回顔湮没佛像不堪可拜加之大殿庫院俱荒蕪無安膝地故以一萱草為梵刹以唯心為本尊幾許星霜哉因雖造営修補志欲企貧道無福而兼無宿榿剰郷里檀度欠助縁豈使何日何時満足意願屈指打胸春秋十有餘載如何無材椽茅茨助無世路資財餘力依思所憑信力而已為信道源功徳母也不如以信心為資材以念力為助化預草創三尊到信力所如得龍水及念力所如靠虎山数月功成矣次而経営大殿厨庫方丈衆寮無不成就且貯田産令充食輪豈知作九尋山始於一簀所募信力所到念力予多年厚志到此了畢仍而点秋毫貼棟宇爾云仰冀皇風永扇帝道遐昌佛日増輝法輪常轉伽藍土地護法安人者也

維時享（保）十二丁未年穀旦

上野国甘楽郡額部荘小幡郷善慶寺村
泉谷山福厳寺現住禪峰珠林叟　敬白
秋畑村　工匠頭領　中條廣右衛門
臼田善八郎
中條千代右衛門
齋藤彦市

意訳

ここに一院あり　山号を「泉谷」寺称を「福厳」という　私は若い頃本寺寶積寺の命によりこの山に住み（住職となり）日を数え　顔が無くなってしまった仏像を仰ぎ見ていたが拝むに堪えなかった　そればかりでなく本堂・庫裏ともに荒れ果て安んずることがない　膝が入れられるほどの狭い土地のゆえに一本の萱を以て寺院とし　心（精神）をもって本尊としていた　何年経っただろうかちなみに本堂造営補修の志を企てようとしても拙僧（修行不足）無福にして村里に檀家も無く寄進もない　どれだけの日時を費やしても望みがかなうことはない　本堂造営の思いは指を屈し胸を打ち十何年経ったであろうか　材木も屋根材も無くお金の余力も無くどうしようもない

よって思うところは信力にすがるのみ　信を為す源は功徳の母なり　信心をもって資材となし　念力を以て助けとするしかない　まず始めに三尊を預かるに至り　信力は龍が水を得るがごとく　念力は虎が山に依るが如く　数ヶ月で成果が出て本堂を造り次いで庫裏・衆寮を造る事が成就した

そして田を貯え穀物を生活の糧とし　住職になって一仕事を始めた時残りの九割の仕事を成し遂げることなどどうして予測する事が出来たであろうか　信力を募るところ念力が集まり　我が多年の厚い志ここに到り終わる　よって筆に墨を点じて棟札を貼り　皇風永く仁政により国が治まることを願っている　栄える仏の光が輝きを増し　仏の教えは盛んになり　本堂・境内は仏の教えを護り人を安らかにしている

時は享保十二年（１７２７年）ひのとひつじ　吉日

上野国甘楽郡額部荘小幡郷善慶寺村
泉谷山福厳寺現住（第三世）禪峰珠林
秋畑村　工匠頭領　中條廣右衛門
臼田善八郎　中條千代右衛門　齋藤彦市